

「ネパール国立公文書館」の使命と役割

サニマイヤ・ラナ

ネパール国立公文書館は、一九六七年十月三日、カトマンズに設立された。そして公的な典籍・資料・写本類は、ビール（ドウルバル）図書館から同公文書館に移された。今日公文書館は、貝葉、樺皮、紙、カンバス、布に書かれた三万五千点にのぼる写本、並びにその他の公文書を所蔵している。このように、南アジア及び東南アジア諸国の中にあつてネパールは豊かな文化的遺産を保存していることでよく知られている。だが、学者・研究者がネパールの写本の重要性を認識したのは、ようやく十九世紀も半ばになってからのことである。学術界がは

じめて我が国の主要な図書館の一つドウルバル図書館の所蔵本の内容を知るようになったのは、一九〇五年にハラ・プラサード・シャーストリ（一八五三―一九三二）が『ネパール・ドウルバル図書館所蔵貝葉及び紙写本カタログ』（*A Catalogue of Palm-leaf and Selected Paper Manuscripts belonging to the Durbar Library, Nepal*）の編纂を行ったときであつた。（上記の通り、同図書館は一九六七年に国立公文書館に統合。）

我が国の文化的、資料的資産の保存のために国立公文書館のスタッフの全員がささやかではあるが、不可欠で

貴重な努力を傾注できることは、光栄の至りである。このことがインド学・仏教学の分野で世界の研究者の仕事を支援、推進することにつながるからである。

東洋哲学研究所が森田康夫代表理事の下、ネパール国立公文書館に他の写本とともに所蔵されてきた『法華経写本』(No. 421)の〈写真版〉と〈ローマ字版〉の出版の準備をすすめられてきたことに深く感謝するものである。また今回の出版が仏教の調査、研究に対する確実な貢献となることを希望したい。国立公文書館を代表して私は、法華経写本のローマ字への転写という長期にわたる困難な作業を通じて仏教の原典研究に貴重な貢献をされてきた徳島大学の戸田宏文教授に感謝したい。一九九九年に出版が予定されている戸田教授の『法華経写本ローマ字版』(上巻)を楽しみにしている。

この出版は、研究目的にのみ使用されるものであり、非売品となっている。

ここで、東洋哲学研究所創立者の池田大作創価学会インタナショナル(SGI)会長、本書の出版者である創価学会の秋谷栄之助会長、そしてこの貴重な仏教原典研

究への貢献に直接、間接に関わった方々にご祝詞を申しあげたい。最後になってしまったが、このすばらしい〈写真版〉の出版を可能にした松岡承一氏の精密で細心な仕事に心より感謝のことばを申し述べたい。

一九九八年五月十八日

(サニマイヤ・ラナ／ネパール国立公文書館館長)

(本稿は一九九八年十一月十八日に出版された『ネパール国立公文書館所蔵梵文法華経写本』〈写真版〉の「あいさつ」を転載したものです。)